

## 活動報告 1

■活動日時：2023年4月23日(日) 9:30~15:45

■プログラム名：カブトムシの森作業 伐採

■目的：クヌギの萌芽更新

■活動場所：カブトムシの森A地区

■参加者：11名

■活動概要：A地区（A班：直径33cmと28cmのクヌギ伐採、B班：直径29.5cmと27cmのクヌギの伐採）

■活動内容：

カブトムシの森A地区に40本ある30年以上たったクヌギの伐採に取り組みました。A地区を東側と西側の2つのエリアに分けて、安全に伐倒作業ができるように設定し、並行して午前中に行う植生調査エリアも平面図に落として、みんなで安全を確保するように注意喚起を行いました。

伐採はA班、B班に分け、ベテランにリーダーを依頼し、各3名で班編成をしました。

A班は、はじめに直径33cmの太いクヌギを伐りました。

ロープをかける木が遠くにしかなく、ロープ掛けに四苦八苦、受け口を伐り終わると12時前になり、早めの休憩としました。

午後、早めに追い口切りを行い、無事、狙った方向へ倒すことができました。その後、一人がチェーンソーで材処理をしている間に、残り2人で、次の直径28cmのクヌギのロープ掛けを行い、受け



口切りを行いました。その後、試しにチェーンソーで追い口切りを行い、倒したい方向へ伐倒ができました。材処理にはチェーンソーも使用し、35cmの薪が取りやすいように3倍の105cmの長さに切っていました。細かい枝葉は川の対岸に運搬しました。

B班は、A地区西側の窪地のエリアの2本のクヌギの伐採に取り組みました。1本目は、ロープ掛けのあと、受け口、追い口切りと順調にすすめ、12時までには、直径29.5cmのクヌギを倒しました。倒れたクヌギが遊歩道を横切ってしまったので、伐採後すぐに遊歩道上のクヌギを撤去しました。

午後からは、直径27cmのクヌギの伐倒を行いました。前方にエゴノキとクヌギの萌芽枝が

あったのですが、2本の木を傷つけることなく、その間に見事にクヌギを倒しました。その後、材処理を行いました。

ヒヤリハットとしては、A地区伐採のとき、B地区からA地区への侵入がないようにB地区とA地区の境に赤ポールと看板を置き、世話役も監視していたのですが、A地区、東側の遊歩道を南側から一般来園者が来られました。森会が日頃、行かない遊歩道で、まったく想定外でした。その後、こちらにも赤ポールを急遽移動して設置しました。また、105cmに切った薪用のクヌギが坂をころげるということもあり、材処理後の材の安定にも十分気を付ける必要があることを再確認しました。



〈本日の作業メンバー〉



## 活動報告2

- 活動日時：2023年4月23日(日) 9:30~12:00(調査10:50~12:00)
- プログラム名：カブトムシの森 植生調査
- 目的：カブ森の変化を観察する
- 活動場所：カブトムシの森A地区 調査区
- 参加者：4名
- 活動概要：A地区の調査区(10m×10m)内の林床の草本類の種と優先率の調査
- 活動内容：5m×5mの区画4つを調査し、調査方法は蕾、花、果実の付いている植物の種類と被度を調べました。

調査区内では確認できた種の違いはありましたが例年とほぼ同じ17種確認できました。当日の別活動で行った2本の伐採でA地区の東側がとても明るくなり、今後、調査区を含めたA地区の伐採が進めば、草本類の多様化が期待できそうです。

調査内容とは離れますが昨年少なかったウマノスズクサが多く見られ、ジャコウアゲハの幼虫が見られるかもしれません。

毎年のことですが草本類の同定は難しく、二人の会員に頼りっきりで調査進めています。中でも難しいのはイネ科植物。今後、伐採が進むとイネ科植物の種類も増えていくと思われるので、来年度は事前に同定するための資料収集をして調査に臨みたいと思います。

